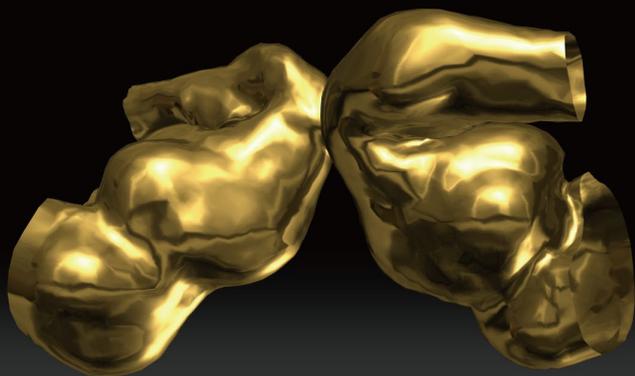


“Bio-Sensor” (1984) ©トーヨーリンクス



“In Search of Muscular Axis” (1990) ©POLYGON PICTURES



福本  
隆司

神奈川工科大学 情報メディア学科  
福本隆司先生 最終講義 & 上映会

# 日本CG黎明期の挑戦： クリエイターとエンジニアがリンクする

日時：2024年3月5日(火) 15:00～

会場：神奈川工科大学 メディアホール (K1号館 1201教室)

# 日本CG黎明期の挑戦： クリエイターとエンジニアがリンクする

## 講義概要：

1980年代から1990年代にかけて制作された2つのCG短編アニメーション作品がある。『Bio-Sensor』(1984)と『In Search of Muscular Axis』(1990)である。この2作品はACM SIGGRAPHのElectronic Theaterでスタンディングオベーションを受けるなど海外から高い評価を受けた。実はこれらの作品は2つのプロジェクトで開発されていたCGシステムの技術検証のためにつくられた。大阪大学工学部CGグループ+トーヨーリンクスの「LINKSプロジェクト」とポリゴン・ピクチュアズの「BIG BANGプロジェクト」を知ること、人と技術のつながりが見えてくる。そして、そこで培われたアイデアが、いま世界中のCG制作の現場で使われている。制作側の当事者として、2つのプロジェクトと2つの作品をひもとく。



## 福本 隆司 *Takashi Fukumoto*

### 略歴：

1959年東京生まれ。大阪芸術大学映像計画学科卒業後、大阪大学工学部CGグループで国産初のコンピュータグラフィックス(CG)専用システム「Links-1」の開発エンジニアらと共にCGアニメーション制作に取り組む。1982年日本の草分け的なCG制作会社(株)トーヨーリンクスに設立と同時に入社。劇場版アニメーション『ゴルゴ13』(1983)のCGシーン制作を皮切りに、TV-CMや博展映像など数多くの映像制作に携わる。ディレクターとして短編アニメーション『Bio-Sensor』(1984)、『渚のペピー』(1987)、瀬戸大橋博『タダノ・スペースポート』ライド用映像(1988)など。

1989年(株)ポリゴン・ピクチュアズ入社。オリジナルCGキャラクターの企画開発に取り組む。ディレクターとして短編アニメーション『In Search of Muscular Axis』(1990)、TV-CM『資生堂HGスーパーハードペンギン・シリーズ』(1995-96)、短編アニメーション『サーカス・シリーズ3部作』(1995-96)など。また、プロデューサーとして『ポリゴン家族』、『the FLY Band!』(1998)など。

1999年リンクス入社。CG制作とモーションキャプチャ事業の合併を提案、翌2000年リンクス・デジワークス設立(2003年から常務取締役、2007年から代表取締役を務める。2010年IMAGICAに事業統合)。カプコン『鬼武者』CGムービー(2001)、同『バイオハザード』CGムービー(2002)、短編アニメーション『KUDAN』(2008)などをプロデュース。

『KUDAN』は、アルス・エレクトロニカ2008“Award of Distinction”、第12回文化庁メディア芸術祭“優秀賞”、Anima2009“Best Short Film”はじめ国内外多くのアニメーション映画祭で受賞・入選を果たす。

その後、CGキャラクターと実写映像をリアルタイム合成するMR(Mixed Reality)・AR(Augmented Reality)技術を活用した事業企画や映画・CM等のプリビジュアルライゼーションに取り組む。

2000年度より大阪芸術大学映像学科非常勤講師

2015年4月より神奈川工科大学情報メディア学科教授

ASIFA-JAPAN(国際アニメーションフィルム協会日本支部)会員



■コラム記事(AUTODESK AREA JAPAN)

[https://area.autodesk.jp/column/trend\\_tech/3dcg-animation-future/06/](https://area.autodesk.jp/column/trend_tech/3dcg-animation-future/06/)



■OpenMoonRayのホームページ

<https://openmoonray.org>